

中田薫博士関係資料抄（十訂稿）

（令和 6（2024）年 1 月 11 日（木）現在）

〔目 次〕

（補正経緯）	2
【参考 HP】	3
【関連 HP】	6
はじめに	7
1 年譜関係	7
2 肖像関係	8
3 墓所関係	8
4 著作文献目録	10
5 著作等抄	12
(1) 著書	12
(2) 編書	13
(3) 還暦祝賀論集	14
(4) 講義録	14
(5) その他	15
6 大学関係資料	17
7 学界関係資料	19
8 海外関係資料	22
9 法制史学会創立 70 年記念行事関係	22
10 高弟その他諸氏関係資料	24
11 漢詩	30
12 その他	30

(補正経緯)

- HP 初載:
- ・令和 3 (2021) 年 8 月 17 日 (火) 初稿作成
 - ・令和 3 (2021) 年 10 月 31 日 (日) 改訂稿作成
全体にわたり修正、追加をした。
 - ・令和 4 (2022) 年 1 月 11 日 (火) 再訂稿作成
一部修正、追加した。
 - ・令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 三訂稿作成
一部修正、追加の上、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十五輯) —』(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録した。
(<https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056>)
 - ・令和 4 (2022) 年 6 月 24 日 (金) 四訂稿作成
従前の「11 漢詩その他」を「11 漢詩」、「12 その他」に区分するとともに、一部修正、追加した。
 - ・令和 4 (2022) 年 9 月 24 日 (土) 五訂稿作成
全体にわたり修正、追加をした。
 - ・令和 4 (2022) 年 10 月 31 日 (月) 六訂稿作成
全体にわたり修正、追加をした。(畠山亮先生「講義録」関係論考、石井勗氏回想記、山口道弘先生御論考等を追加)
 - ・令和 4 (2022) 年 12 月 12 日 (月) 七訂稿作成
全体にわたり修正、追加をした。
 - ・令和 5 (2023) 年 1 月 7 日 (土) 八訂稿作成
全体にわたり修正、追加をした。
 - ・令和 5 (2023) 年 7 月 17 日 (月) 九訂稿作成
北康宏先生『中田薫』(人物叢書、吉川弘文館、令和 5 (2023) 年 8 月 1 日刊) が刊行されたことから、同書に関連して全体にわたり修正、追加をした。
(<http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html>)
 - ・令和 6 (2024) 年 1 月 11 日 (木) 十訂稿作成
全体にわたり修正、追加をした。

【参考 HP】（令和 3（2021）年 12 月 5 日、同 4（2022）年 1 月 31 日、6 月 24 日、9 月 24 日、10 月 31 日、同 6（2024）年 1 月 11 日各一部修正）

* 法制史学会 HP（平成 14（2002）年 10 月 5 日公開、平成 24（2012）年 4 月 1 日移転）

〈<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm>〉 ⇒

（新） 〈<https://www.jalha.org/>〉

・ 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F>〉

* 全体 HP

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉

・ 「日本のローマ法」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm>〉

・ 「法制史学者著作目録選（WEB 版）」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・ 「「法制史コーナー」 所載項目一覧」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichiran002.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：宮崎道三郎博士略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：池辺義象氏著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：三浦周行博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miura001.pdf>〉

・ 本 HP 本稿：中田薫博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：牧健二博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/makikenji001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：内藤吉之助教授略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：瀧川政次郎博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takikawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：金田平一郎博士略年譜・著作目録

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：小早川欣吾先生略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：「小早川欣吾先生記念メダルによせて

— 小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

・ 本 HP 別稿：『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他」

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf〉

- ・本 HP 別稿：牧英正博士著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf>>
- ・本 HP 別稿：小林宏先生著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf>>
- ・本HP別稿：千賀鶴太郎博士著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf>>
- ・本HP別稿：戸水寛人博士著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf>>
- ・本HP別稿：春木一郎博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf>>
- ・本HP別稿：原田慶吉教授略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm>>
- ・本HP別稿：船田享二博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm>>
- ・本HP別稿：田中周友博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm>>
- ・本HP別稿：栗生武夫先生略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf>>
- ・本 HP 別稿：「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf>
- ・本 HP 別稿：「『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出
 —『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—」
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf>
- ・本 HP 別稿：PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf>
- ・本HP別稿：西本穎博士著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf>>
- ・本HP別稿：久保正幡博士著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf>>
- ・本HP別稿：井上周三教授関係資料抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf>>
- ・本HP別稿：上山安敏先生著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf>>
- ・本HP本別稿：笥克彦博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf>>
- ・本HP別稿：近藤英吉博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf>>

- ・本HP別稿：増田福太郎博士関係資料一斑
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf>〉
- ・本 HP 別稿：山崎丹照先生著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf>〉
- ・本 HP 別稿：戴炎輝博士略年譜・著作目録
 〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf〉

- * 和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（令和5（2023）年12月31日閉館）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>〉
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm>〉
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm>〉
- ・いろいろ電子文庫
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm>〉
- ・PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）
 〈<http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html>〉
 （註）早くには「船田亨二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か?）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田亨二電子文庫計画中止」の表示が出た。

- * 「西村稔先生（1947～2019）年譜・著作目録（阪本尚文編）（初版）（2020（令和2）年4月現在）」⇒爾後逐次改訂⇒（最新版：令和5（2023）年11月現在第8稿掲載）
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf>〉
 （註）本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ——西村稔先生追悼集』（私家版、2020（令和2）年2月28日刊（福島大学学術機関情報リポジトリ所収〈<http://hdl.handle.net/10270/5154>〉）に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

【関連 HP】（令和 4（2022）年 10 月 31 日、12 月 12 日、同 5（2023）年 1 月 7 日、同 6（2024）年 1 月 11 日各一部修正）

- ・法制史学会：〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館：〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・（追加：令和 4（2022）年 12 月 12 日）
〈https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202_01.html〉
「[ホーム](#)>[新着情報](#)>[ニュース](#)> 「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）」
「2022 年 12 月 2 日「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします（令和 4 年 12 月 21 日）」
「国立国会図書館は、令和 4 年 12 月 21 日に、[国立国会図書館デジタルコレクション](#)をリニューアルします。リニューアルにより、全文検索可能なデジタル化資料が増加するとともに、閲覧画面が改善されます。詳しくはプレスリリースをご覧ください。」
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和 4（2022）年 5 月 19 日開始）
〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉
- ・（下記：令和 6（2024）年 1 月 11 日追加）
「2024 年 1 月 5 日 新「国立国会図書館サーチ」を公開しました」⇒
「国立国会図書館は、従来のウェブサービス「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」及び「国立国会図書館サーチ」を統合・リニューアルし、令和 6 年 1 月 5 日（金）から、新「国立国会図書館サーチ」としてサービスを開始しました。」
〈https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105_01.html〉
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉
- ・CiNii：〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（[【\[2022\] 4/18 更新】CiNii Articles の CiNii Research への統合について](#)）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉
- ・IRDB（学術機関リポジトリデータベース）：〈<https://irdb.nii.ac.jp/>〉（追加：令和 5（2023）年 1 月 7 日）
- ・朝日新聞クロスサーチ（令和 4（2022）年春「聞蔵Ⅱビジュアル」を全面リニューアル）
〈<http://www.asahi.com/information/db/2for1.html>〉
- ・ヨミダス歴史館
〈<https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/>〉
- ・毎索（マイサク）
〈<http://xn--https-ft8kv51h//mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>〉

はじめに

中田薫博士（1877～1967）関係資料については、もとより膨大なものがあるだろうが、本稿は、去る令和 3（2021）年 5 月に別の所用があって急遽作成した断片資料に、多少の修正を施したものにすぎない。今後逐次補訂できればと願う。初稿作成に当たっては、上山安敏先生はじめ諸先生方より御懇篤な御示教を賜った。記して深甚の謝意を表する。

（令和 3（2021）年 8 月 7 日謹誌）

（追記）

今般、長く待たれていた北康宏先生『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）が刊行された。中田薫博士研究上極めて貴重、重要な御著作であり、本稿も同書に基づき抜本的補正の要あるも、今はただ同書刊行の紹介のみに止まらざるを得ないことを遺憾とす。〈<http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html>〉

（九訂稿作成時。令和 5（2023）年 7 月 17 日謹誌）

1 年譜関係

・ウィキペディア：「中田薫」（1877.3.1～1967.11.21）

〈[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E7%94%B0%E8%96%AB\(%E6%B3%95%E5%AD%A6%E8%80%85\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E7%94%B0%E8%96%AB(%E6%B3%95%E5%AD%A6%E8%80%85))〉

・北康宏（1968～）『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）312～313 頁掲載「中田家関係系図」、314～326 頁掲載「略年譜」各参照。（令和 5（2023）年 7 月 17 日追加）

・人事興信録各年版。ちなみに、近年名古屋大学大学院法学研究科より下記『日本研究のための歴史情報 人事興信録データベース』が公表されている。⇒「中田薫」：第 4 版（大正 4（1915）年 1 月）、第 8 版（昭和 3（1928）年 7 月）各参照。

〈<http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who4-6525>〉、

〈<http://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who8-15702>〉

・『大日本博士録（1888-1920）第 1 巻（全六巻之内）法学博士及薬学博士之部』（発展社、大正 10 年 1 月 11 日刊）15～16 頁（124）（国立国会図書館デジタルコレクション：173 コマ。小学校からの全学歴掲載。〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/946116>〉）

・『学位大系博士氏名録 昭和七年版』（発展社出版部、昭和 6 年 10 月 25 日刊）「法学博士」1 頁（国立国会図書館デジタルコレクション：120 コマ。

〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1447306>〉）

・東大退官（昭和 12 年 3 月）前後のものとして、前掲『大衆人事録』（第 12 版、東京篇。帝国秘密探偵社・国勢協会、昭和 13 年 5 月 5 日刊）483 頁（国立国会図書館デジタルコレクション：279 コマ。〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1207513>〉）

・「栗野先生の書簡 壹通」『故栗野健次郎先生追懷録』（第二高等学校同窓会、昭和 11 年 12 月 24 日刊）56～59 頁（栗野健次郎：第二高等学校教授、1864～1936）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1023455/1/1>〉

・レファレンス協同データベース

国立教育政策研究所教育図書館 / 教育図書館（登録日：平成 19（2007）年 9 月 14 日）

〈https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000111751〉

・（参考）『官報』：（例示）第 8444 号（明治 44 年 8 月 14 日（月））280 頁に、「○学事 ○留学生帰朝 文部省外国留学生東京帝国大学法科大学助教授法学博士中田薫ハ本年六月十二日、（中略）孰モ帰朝セリ（文部省）」とある。

2 肖像関係

・『大日本博士録（1888-1920）第 1 卷（全六卷之内）法学博士及薬学博士之部』（発展社、大正 10 年 1 月 11 日刊）138～139 頁掲載「中田薫」中の肖像

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1749208/1/3>〉（187 齣）

・『中田先生還暦祝賀法制史論集』（岩波書店、昭和 12（1937）年 3 月 1 日刊）巻頭「書齋における先生」

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1222177/1/1>〉（7 齣）

・『久保正幡略年譜・主要著作目録』（久保正幡先生編、製作・洋販、A5 判、平成 10（1998）年 10 月 20 日刊。「付録写真集〈平成 10（1998）年 10 月 20 日作成〉」3 頁「還暦の中田先生」、同 5 頁「晩年の中田先生」（警察政策学会資料第 115 号〈令和 3（2021）年 5 月 8 日刊〉458 頁に再録。〈<http://www.asss.jp/>〉参照。）

・高柳真三博士（1902～1990）「追悼の辞 中田先生を偲ぶ」掲載の『法制史研究 18 1968』（昭和 43（1968）年 10 月 20 日刊）巻頭「故名誉会員・中田薫先生」

・北康宏（1968～）『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）（多数の写真が掲載されている。）（令和 5（2023）年 7 月 17 日追加）

3 墓所関係

・北康宏先生（1968～）『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）301～304 参照。（令和 5（2023）年 7 月 17 日追加）

・久保正幡博士平成 7（1995）年 12 月 26 日御講演¹にて曰く「中田家の墓所は青山墓地〔東京都青山霊園〕にある。中田家の石塔が立っていて、その周りに先生の父上〔中田直

¹ 久保正幡博士講演「中田薫先生の思い出と法制史学会の回顧」第 170 回法制史学会東京部会例会
〈<https://www.jalha.org/history/tokyo/>〉（平成 7（1995）年 12 月 26 日（火）午後 3 時～5 時 50 分、於早稲田大学）⇒警察政策学会資料第 115 号（令和 3（2021）年 5 月 8 日刊）455～475 頁に要旨収録。
〈<http://www.asss.jp/>〉⇒
〈<http://www.asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99115.pdf>〉参照。（令和 3（2021）年 10 月 31 日一部修正）

茲氏：なかだちよくじ、1847～1902] の業績が刻んである。青山墓地の中田家の墓所をたてたのは先生自身で、先生自身が墓石に中田家の歴史を漢文で三面にわたって認めている。」(要旨)。

・久保先生から上記墓所のことをお聞きしてから二十数年後の去る令和 3 (2021) 年 1 月 16 日 (土)、青山霊園に宮崎道三郎博士及び中田博士各墓所展墓の機会を得た。両墓所は極めて近いところに存する。ちなみに、京大法科で初めて日本法制史を講じた池辺義象氏 (1861～1923) の墓所も近くである。中田直茲氏墓碑銘 (白文) は風雪を経て今ではさすがにやや読みにくいが、幸いにも例えば下記サイト (「中田直茲」ウィキペディア) に全文が掲出されている。墓碑銘原案はもとより中田博士作成であろうが、墓碑には「内蔵頭従三位勲一等男爵 渡邊千秋 [1843～1921] 撰竝書」とある。

〈 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E7%94%B0%E7%9B%B4%E6%85%88>〉

(中田直茲)

〈 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%A1%E8%BE%BA%E5%8D%83%E7%A7%8B>〉 (渡邊千秋)

ここでは、墓碑銘末尾部分だけ高橋均先生の御示教による句読点文、書下し文等と併せ掲出しておく。高橋先生の御厚情に深く感謝いたします。

(原文) 余與君相知相交于茲二十年一朝溘亡幽明永隔每思之未曾不惻然今茲小祥期至嗣子薰來請銘義不可辭因据狀叙梗概繫之以銘銘曰敦篤重厚在職循良音容恍惚青山之域ト宅固藏鶴悞何處暮雲蒼蒼明治三十六年二月内蔵頭従三位勲一等男爵渡邊千秋撰竝書

(句読点文) 余與君相知相交于茲二十年、一朝溘亡幽明永隔、每思之未曾不惻然。今茲小祥期至、嗣子薰來請銘、義不可辭、因据狀叙梗概、繫之以銘。銘曰、敦厚重厚、在職循良、音容恍惚、青山之域、ト宅固藏 [マ、臧か。]、鶴悞何處、暮雲蒼蒼 明治三十六年二月内蔵頭従三位勲一等男爵 渡邊千秋撰竝書

(書下し文等) 余君と相知り相交ること茲に二十年、一朝溘亡し (突然亡くなり) 幽明永く隔つ。毎 (つね) にこれを思い、いまだかつて惻然たらざるべからず (心が晴れることもない)。今茲に小祥期至り (一周忌になり)、嗣子薰來たり銘を請う、義として辞すべからず、因りて狀に据りて梗概を叙し、これを繋ぎ以て銘とす。銘に曰く、敦厚重厚にして、職に在りて循良、音容恍惚たり、青山の域、ト宅固藏 [マ、臧か]、鶴何処にか悞 (な) き、暮雲蒼蒼たり。(人柄が重厚で、仕事に励み、雰囲気はゆったりしている。青山のこの場所は、墓所としても落ち着いていて、鶴の鳴き声がどこからか聞こえ、夕暮れの雲が青くなびいている。) 明治三十六年二月 内蔵頭従三位勲一等男爵 渡邊千秋撰竝書

(参考 1) 宮崎道三郎博士墓所関係

〈 <http://honmokujack.blog.jp/archives/19615926.html>〉

(参考 2) 池辺義象氏墓所関係

〈 <http://honmokujack.blog.jp/archives/18491576.html>〉

4 著作文献目録

- ・「著書及び論文の編年総目録」石井良助「(紹介) 中田薫「法制史論集第三卷」(昭和十八年)『国家学会雑誌』第 57 卷第 11 号 (昭和 18 (1943) 年 11 月 1 日刊) 106～110 頁
- ・「著作文献目録」中田薫『法制史論集』第 4 卷 (岩波書店。昭和 45 (1970) 年 3 月 12 日再刷刊 (初刷は昭和 39 (1964) 年 7 月 25 日刊)) 311～315 頁
- ・山口道弘 (1979～)「第 11 章 私有と自主立法権 (Autonomie) —法制史家中田薫の学問形成—」佐藤健太郎・荻山正浩・山口道弘編著『公正から問う近代日本史』(吉田書店、平成 31 (2019) 年 3 月 25 日刊) 509～556 頁 (佐々木健教授の御示教に拠る。) ⇒中田薫博士文献紹介 551～553 頁 (一部講義録をも記載)
- ・北康宏 (1968～)『中田薫』(人物叢書、吉川弘文館、令和 5 (2023) 年 8 月 1 日刊) 327～343 頁掲載「参考文献」中 331～332 頁「[中田薫の著作]」参照。(令和 5 (2023) 年 7 月 17 日追加)

(参考 1) (令和 4 (2022) 年 10 月 31 日一部修正)

- ・国立国会図書館 <<http://www.ndl.go.jp/>>
- ・CiNii Books <<https://ci.nii.ac.jp/books/>>
- ・Webcat Plus (ウェブキャット・プラス)
<<http://webcatplus.nii.ac.jp/webcatplus/details/creator/45479.html>>
- ・IRDB (学術機関リポジトリデータベース) : <<https://irdb.nii.ac.jp/>> (令和 5 (2023) 年 1 月 7 日追加)
- ・<<https://calil.jp/>> (カーリル)
- ・ざっさくプラス (雑誌記事索引集成データベース)
<https://zassaku-plus.com/service/login?return_url=http%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F>
- ・『東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』(大空社刊) 各巻
<<https://ci.nii.ac.jp/ncid/BN09089530>>
- ・聞蔵Ⅱ <<https://database.asahi.com/index.shtml>>
- ・ヨミダス歴史館 <<https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>>
- ・朝日新聞クロスサーチ (令和 4 (2022) 年春「聞蔵Ⅱ ビジュアル」を全面リニューアル)
<<http://www.asahi.com/information/db/2for1.html>>
- ・ヨミダス歴史館
<<https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/>>
- ・毎索 (マイサク)
<<http://xn--https-ft8kv51h//mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>>

(参考 2) (令和 4 (2022) 年 12 月 12 日追加)

- ・法政大学文学部史学研究室編『日本人物文献目録』(平凡社、昭和 49 (1974) 年 1 月 10 日刊) 所載「中田薫」を見るに、『国民経済雑誌』(神戸大学経済経営学会) 第 106 卷第 5

号（昭和 37 年 11 月刊）に「中田薫博士略歴・著作目録」が掲載されている旨の記載があるも、当該号を検索すると、これは誤植であって、「田中薫博士略歴・著作目録」のことである〈<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/00167875/>〉。なお、上記『日本人物文献目録』には、「田中薫」項目に同じ記載がある。ちなみに、田中薫博士（1898～1982）は地理学者、経済地理学者、神戸大学名誉教授。

〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%B0%E4%B8%AD%E8%96%AB>〉

（本件は令和 4（2022）年 11 月 30 日阪本尚文先生の御教示に拠る。厚く御礼申し上げます。）

5 著作等抄

(追記)

・北康宏(1968～)『中田薫』(人物叢書、吉川弘文館、令和5(2023)年8月1日刊)327～343頁掲載「参考文献」中331～332頁「[中田薫の著作]」参照。(令和5(2023)年7月17日追加)

(1) 著書

・『徳川時代の文学に見えたる私法』

・『徳川時代の文学と私法』(半狂堂(宮武外骨)、大正12(1923)年10月20日刊。和装本、宮武外骨の「跋」あり。)

〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1182000>〉

・『徳川時代ノ文学ニ見エタル私法』(明治堂書店、大正14(1925)年9月5日刊。上記の増訂本)

〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1182003>〉

・『徳川時代ノ文学ニ見エタル私法』(創文社、昭和31(1956)年刊。改組版。「重版の言葉」あり。)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/2993961>〉

・『徳川時代の文学に見えたる私法』(岩波書店(岩波文庫)、昭和59(1984)年3月16日刊。石井良助「解説」あり。)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/11931576>〉

・『法制史論集』(全4巻)(岩波書店、大正15(1926)年～昭和39(1964)年。昭和45(1970)年一括復刊以降は全4巻5冊。平成6(1994)年2月にも一括復刊あり。なお、『法制史論集』出版案内・予約申込パンフレット(世良晃志郎(1917～1989)その他。)ありとのこと(北康宏『中田薫』254頁に拠る。おそらく昭和45(1970)年刊か。))('なお'以下部分:令和5(2023)年7月17日追加)。

・第1巻:親族法・相続法(大正15(1926)年3月25日初刷刊、昭和31(1956)年10月10日再版('再版小序'あり。))

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/11932045>〉

(参考)石井良助「中田薫著『法制史論集』第一巻の再版を喜ぶ」『図書』第89号(岩波書店、昭和32(1957)年2月刊)22～23頁

・第2巻:物権法(昭和13(1938)年12月30日刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1186301>〉

・第3巻:債権法及び雑著(昭和18(1943)年6月30日刊。昭和45年復刊以降は上下2冊に分冊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1184330>〉

(参考)石井良助「(紹介)中田薫「法制史論集第三巻」(昭和十八年)」『国家学会雑誌』第57巻第11号(昭和18(1943)年11月1日刊)106～110頁

・第4巻: 補遺 (昭和39 (1964) 年7月25日刊。昭和45 (1970) 年3月12日再刷刊では増補 (「著作文献目録」及び石井良助「中田先生の業績について」) あり。)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/2998667>〉

・『庄園の研究』 (彰考書院、昭和23 (1948) 年10月10日刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/2995843>〉

・『村及び入会の研究』 (岩波書店、昭和24 (1949) 年6月20日刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1153996>〉

・『古代日韓交渉史断片考』 (私刊、昭和31 (1956) 年3月1日刊。⇒創文社、昭和31 (1956) 年9月9日刊 (「新版小序」あり。「附録」増補))

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/3006576/1/1>〉、

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/3006465>〉

・『続「南留別志」』 (私刊、昭和39 (1964) 年4月29日刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/2485765>〉

(2) 編書

・中田薫編『宮崎教授在職廿五年記念論文集』 (有斐閣、大正3 (1914) 年5月20日刊) (後藤朝太郎 (1881~1945) の題篆あり。ちなみに、後藤は当時『国家学会雑誌』に「支那古代に於ける法制経済関係文字の解剖 (1) ~ (10)」同誌第27巻第6号 (大正2年6月刊) ~ 第28巻第9号 (大正3年9月刊) を連載している。)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/952372/1/1>〉

・中田薫編『宮崎先生法制史論集』 (岩波書店、昭和4 (1929) 年6月20日刊。著作権相続者 宮崎於菟丸 (次男、陸軍軍人、1894~1961))

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1050761/1/1>〉

(書評)

・高柳眞三 (1902~1990) (紹介及批評) 「中田薫博士編『宮崎先生法制史論集』」『国家学会雑誌』第43巻第6号 (昭和4 (1929) 年6月1日刊) 171~180頁

・牧健二 (1892~1989) 『東京朝日新聞』昭和4年7月26日 (金) 6面「読書ページ」

・福田徳三 (1874~1930) 「穂積、宮崎両博士遺著の新刊」『改造』昭和4年8、10月号 ⇒ 同『厚生経済研究』下巻 (刀江書院、昭和5年3月5日刊) 647~685頁に再録。(令和6年1月? 日追加)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1442725/1/1>〉 (180~200 齣)

〈 <https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/15413/060FT00816.pdf> 〉

〈<https://www.lib.hit-u.ac.jp/images/2019/12/fukudatokuzopapers.pdf>〉 (福田徳三関係資料目録)

⇒ (復刊) 『【福田徳三著作集 第19巻】 厚生経済研究』 (信山社、平成29年7月31日刊)

〈<https://www.shinzansha.co.jp/book/b308906.html>〉

・藤木 (藤木邦彦 (1907~1993) か?) 『史学雑誌』41編10号 (昭和5年10月〇日刊) 1240頁 (未見)

(3) 還暦祝賀論集

・『中田先生還暦祝賀法制史論集』（岩波書店、昭和 12（1937）年 3 月 1 日刊）巻頭に下記の記載あり。「背及び扉の文字は金田平一郎、捧呈の辞は高柳眞三の執筆に係る。」「恩師中田薫先生の還暦を寿ぎ門生等この書を編し謹みて先生の机下に捧呈す 昭和十二年三月一日（下段に執筆者六氏の自筆署名あり。）」

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1907898>〉

(4) 講義録

・中田博士の残存筆記講義録については国立国会図書館 〈<https://www.ndl.go.jp/>〉、CiNii 〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉等参照。中には学年末試験問題が収録されているものあり。（例示）『西洋法制史』（文信社、昭和 3（1928）年）、『日本公法法制史』（啓明社、昭和 7（1932）年）、『獨逸法制史』（啓明社、昭和 8（1933）年）、『日本私法々制史』（東京プリント刊行会、昭和 11～12（1936～37）年）、『仏蘭西法制史』（文精社、昭和 11（1936）年）

・日本法制史関係では、中田薫述・石井良助校訂『日本法制史講義』（法制史学会、昭和 58（1983）年 10 月 15 日刊、発売所：創文社（同日、創文社刊もあり。）。大正 10（1921）年度日本公法法制史、大正 11（1922）年度日本私法法制史。石井良助「あとがき」が公開されている。

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/11932009>〉

・西洋法制史関係では、近年、昭和 8（1933）年度に受講された團藤重光博士（1913～2012、昭和 10 年東大法卒）のノート（中田薫「西洋（獨逸）法制史」講義のノート）が公開された（龍谷大学矯正・保護総合センター「團藤文庫」）。

〈<http://rcrc.ryukoku.ac.jp/docdata/archives.html>〉、

〈<https://rcrc.ryukoku.ac.jp/dandoubunko/pdf/nakata/0.pdf>〉

ちなみに、その中の解説には、「團藤文庫の中に受講ノートや講義ノートの類は少ないが、その一つに團藤が東京帝国大学法学部二年次（昭和 8 年度）に受講した中田薫「西洋（獨逸）法制史」講義のノートがある。日本における法制史学の最重要人物の一人である中田は講義録等を残さないことで有名であり、西洋法制史についても講義の内容を知るには私家版の所謂「講義ノート」の類に頼る他はなく、またその数も多いとは言えない。本ノートは、その完成度の高さと書き込みの豊富さことから、当時の東京帝国大学における西洋法制史講義の実態に迫真するものと言え、とりわけ法制史教育史という文脈において重要な位置を占めると共に、一「学生」としての團藤の実像を知るための数少ない素材としてもきわめて有益である。」とある。

〈<http://rcrc.ryukoku.ac.jp/docdata/nakata.html>〉

・（参考）畠山亮「第 1 部 團藤重光の法思想・立法論 第 1 章 法学教育史から見る法制史についての一考察——東京帝国大学生・團藤重光の受講ノートをたよりに」福島至（1953

～) 編著『團藤重光研究 法思想・立法論、最高裁判事時代』(龍谷大学社会科学研究所叢書第128巻、日本評論社、令和2(2020)年2月29日刊)10～43頁

〈<https://www.nippy.co.jp/shop/book/8228.html>〉

(参考)(KAKEN)「團藤重光日記の分析と翻刻—最高裁研究と法思想研究を軸として」

〈<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K01255/>〉

(兒玉圭司先生の御示教に拠る。厚く御礼申し上げます。)

(令和4(2022)年10月31日追加)

・中田博士は春木一郎博士(1870～1944)欧米出張中の大正11(1922)年度に羅馬法をも講義しているが、この残存講義録ノート類情報は現時点では存在しない模様。⇒

⇒(追記)北康宏先生『中田薫』(人物叢書、吉川弘文館、令和5(2023)年8月1日刊)152～153頁「第七六 中田の一年限りの羅馬法講義」には、受講生高柳眞三博士(1902～1990、大正14(1925)年東大法卒)筆記ノート等保存の件が記載されている。(令和5(2023)年7月17日追加)

(5) その他

(辞書関係)(令和4(2022)年1月16日追加)

・上田万年・高楠順次郎・白鳥庫吉・村上直次郎・金沢庄三郎共編『日本外来語辞典』(三省堂、大正4年(1915)5月11日刊。項目の「署名略字」には松村任三(J.M.)・宮崎道三郎(M.M.)・中田薫(N.)・常磐井堯猷(J.T.)のものもある。この署名は語源などの解説を書いた人のもので、疑義が残る場合に付けられた。)

〈<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/ayumi23>〉(三省堂辞書の歩み 第23回)

このうち宮崎道三郎博士と中田薫博士分については、以下の箇所に存在するが、取り急ぎ目を通しただけで精査していないことから、見落としがあることと思う。いずれ再確認の予定である。もとよりすべてローマ字検索であるが、記載に不便なため併用の漢字で示した。数字(①、②、③)は各語源解説で順番があるものを指し、それに細注があるものは(細注)として記した。各頁は左右二段に分かれるが諸般の事情で頁数のみにした。重複署名者が宮崎博士・中田博士以外の方のものもあるが併記していない。なお、同書復刻版として『辞典叢書⑩日本外来語辞典』(東出版、平成7(1995)年12月10日刊)がある。

ア 宮崎道三郎博士分

10～11頁 鴨緑江、13頁 朝臣①、14頁 直③、57頁 畠(畑)、59頁 篋(へら)、85頁 鎌②、116頁 郡②、160頁 造②、③+(細注①)②、166頁 村②、166頁 群、184頁 女房、190頁 女、190頁 母、267頁 郷里+(細注)、289頁 白③、296頁 舅①、296頁 姑①、306頁 村主①、325頁 足、341頁 之①、344頁 釣瓶、366頁 海

イ 中田薫博士分

2頁 県③、13頁 朝臣②、13頁 直①、②、61頁 彦①、62頁 姫①、160頁 造③
+ (細注②) ①、166頁 連、186頁 首、190頁 臣、306頁 村主②

6 大学関係資料

- ・『東京帝国大学一覽』各年版（東京帝国大学）〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・『東京帝国大学五十年史 上・下冊』（東京帝国大学、昭和 7（1932）年 11 月 20 日刊）
〈<https://www.ndl.go.jp/>〉、〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1453584>〉、
〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1453613>〉
- ・『東京大学百年史 部局史 1』（東京大学、昭和 61（1986）年 3 月 1 日刊）
〈https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/z1901_00030.html〉
〈https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=8329&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=28&block_id=31〉
- ・「東大法学部の人々 下」『法律春秋』第 3 卷第 10 号（昭和 3（1928）年 10 月号）（84 頁「中田薫教授」）
- ・「中田薫博士」『時事新報』昭和 6（1931）年 11 月 30 日～同 7（1932）年 1 月 7 日（「大学教授室（1）～（32）」）⇒神戸大学経済経営研究所 新聞記事文庫 人物伝記（5-001）
〈http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086950&TYPE=IMAGE_FILE&POS=7&LANG=JA〉（肖像あり。）
- ・中田薫「古在氏の想出」（昭和 13（1938）年 2 月 20 日誌）安藤円秀（1885～1948）編『古在由直博士』（古在博士伝記編纂会、昭和 13（1938）年 6 月 18 日刊。古在由直：1864～1934）118～134 頁所収、後に前掲中田薫述・石井良助校訂『日本法制史講義』（創文社、昭和 58（1983）年 10 月 15 日刊）に「附録」として再録（401～414 頁。うち吉野作造博士（1878～1933）関連：411～413 頁参照。）。
- ・昭和 5（1930）年平野義太郎助教授（東大法助教授、民法、1897～1980、『民法に於けるローマ思想とゲルマン思想』（有斐閣、大正 13（1924）年刊）の著者）辞職事件における法学部長としての中田博士の言動につき、田中耕太郎・末川博・我妻栄・大内兵衛・宮沢俊義『大学の自治』（朝日新聞社、昭和 38 年 3 月 10 日刊）63～65 頁、井ヶ田良治後掲「中田薫」『日本の法学者』238 頁各参照。
- ・石井勗（つとむ、1898～）『東大とともに五十年』（原書房、昭和 53（1978）年 4 月 15 日刊）（北康宏先生の御示教に拠る。厚く御礼申し上げます。）（令和 4（2022）年 10 月 31 日追加）
- ・「石井勗氏談話記録 東京大学旧職員インタビュー（2）」『東京大学史紀要』第 4 号（昭和 58（1983）年 7 月刊）1～26 頁（石井勗：つとむ、1898～）
〈<https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/records/2001139#.Y14GfhpP3tU>〉（令和 4（2022）年 10 月 31 日追加）
- ・丸山眞男教授（1914～1996。昭和 12（1937）年東大法卒）は、「田中〔耕太郎、1890～1974〕派を遡ると中田薫先生になる。中田薫から田中耕太郎というのが法学部正統派です。」「主流は中田先生と杉山直治郎先生〔1878～1974、仏蘭西法〕なのです。正統派の脈絡からいうとそういう関係になるのです。」松沢弘陽・植手通有・平石直昭編『定本 丸山眞男回顧談（上）』（岩波現代文庫、平成 28（2016）年 7 月 15 日刊（親本：岩波書店、

平成 18 (2006) 年刊)) (276、277 頁) と言っておられる。なお、同 (下) (同年 8 月 17 日刊) 57、248～249 頁にも同趣旨のことが出ている。(西村稔先生、阪本尚文先生の御教示に拠る。厚く御礼申し上げます。)

・井上寿一 (1956～) 『矢部貞治 知識人と政治』 (中公選書、令和 4 (2022) 年 11 月刊。矢部貞治: 1902～1967) 81 頁 <<https://www.chuko.co.jp/zenshu/2022/11/110131.html>> なお、後掲矢部貞治『矢部貞治日記 銀杏の巻』 (自昭和 12 年 5 月 28 日至昭和 20 年 12 月 31 日。読売新聞社、昭和 49 (1974) 年 5 月 15 日刊) 参照。(令和 4 (2022) 年 12 月 12 日追加)

・牧原出 (1967～) 『田中耕太郎一闘う司法の確立者、世界法の探求者』 (中公新書、令和 4 (2022) 年 11 月 25 日刊。田中耕太郎: 1890～1974) (令和 4 (2022) 年 12 月 12 日追加)

<<https://www.chuko.co.jp/shinsho/2022/11/102726.html>>

(追記)

・「制度の独立を守って 牧原出〈第 24 回読売・吉野作造賞〉受賞のことば」

<<https://chuokoron.jp/culture/123350.html>> (令和 5 (2023) 年 7 月 17 日追加)

・北康宏 (1968～) 『中田薫』 (人物叢書、吉川弘文館、令和 5 (2023) 年 8 月 1 日刊) (令和 5 (2023) 年 7 月 17 日追加)

7 学界関係資料

昭和 16 (1941) 年

・瀧川政次郎 (1897~1992) 「明治以後に於ける法制史学の発達」『日本法制史研究』(有斐閣、昭和 16 (1941) 年 3 月 5 日刊) 607~664 頁 (国立国会図書館デジタルコレクション: 327~356 齣、[〈https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1269827〉](https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1269827))

昭和 17 (1942) 年

・石井良助 (1907~1993) 「日本法制史研究の発達」『東京帝国大学学術大観 法学部 経済学部』(東京帝国大学、昭和 17 (1942) 年 4 月 13 日刊) 277~293 頁 (国立国会図書館デジタルコレクション: 151~159 齣)

・原田慶吉 (1903~1950) 「我が国に於ける外国法史学の発達」『東京帝国大学学術大観 法学部 経済学部』(東京帝国大学、昭和 17 (1942) 年 4 月 13 日刊) 294~307 頁 (国立国会図書館デジタルコレクション: 160~166 齣)

(参考) 和田徹「原田慶吉電子文庫」(令和 5 (2023) 年 12 月 31 日閉館)

[〈http://home.q02.itscom.net/tosyokan/data/HARADA007.html〉](http://home.q02.itscom.net/tosyokan/data/HARADA007.html)

昭和 23 (1948) 年

・石井良助 (1907~1993) 『日本法制史概説』(弘文堂、昭和 23 (1948) 年 12 月 25 日刊。復刻本: 創文社、昭和 35 (1960) 年 6 月 25 日改版第一刷) 緒論 2~3 頁

昭和 37 (1962) 年

・日本学士院『日本学士院八十年史』(本編, 資料編二)(昭和 37 (1962) 年 3 月刊)

昭和 43 (1968) 年

・石井良助 (1907~1993) 「日本法制史学八十八年—東京大学における—」『国家学会雑誌』第 81 卷第 1・2 号 (昭和 43 (1968) 年刊) 109~137 頁 ⇒同『大化改新と鎌倉幕府の成立 増補版 法制史論集第一巻』(創文社、昭和 47 (1972) 年 10 月 30 日刊) 327~359 頁に収録。

昭和 48 (1973) 年

・熊谷開作 (1920~1990) 「明治時代における法学教育と法制史教育」『法制史教育の現状と問題点』(法制史研究 22 号別冊・学会報告、法制史学会、昭和 48 (1973) 年 6 月 20 日刊) 165~181 頁

昭和 62 (1987) 年

・岩野英夫「わが国における法史学の歩み (1873~1945): 法制史関連科目担任者の変遷」『同志社大学法学』第 39 卷第 1・2 号 (昭和 62 (1987) 年 7 月 31 日刊) 225~312 頁

[〈https://doors.doshisha.ac.jp/duar/repository/ir/11524/kj00000658370.pdf〉](https://doors.doshisha.ac.jp/duar/repository/ir/11524/kj00000658370.pdf)

⇒・研究代表者岩野英夫『法学教育における法史学の存在価値—わが国における法史学の成立と展開との関連で—』平成 11 年度—平成 13 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (2)) 研究成果報告 (3 月刊) (註: これには、上記岩野英夫「わが国における法史学の歩み (1873—1945) —法制史関連科目担任者の変遷—」『同志社法学』第 39 卷第 1・2 号 (第 200 号記念論集 I、昭和 62 (1987) 年 7 月 31 日刊) の修正版が収録されている。)

(参考: [〈http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862〉](http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862))

平成 15 (2003) 年

・わが国における法史学の歩み研究会 代表岩野英夫「聞き書き・わが国における法史学の歩み (2) —井ヶ田良治先生にお聞きする—」『同志社法学』第 55 巻第 1 号 (292 号) (平成 15 (2003) 年 5 月 31 日刊) 293~363 頁 (令和 4 (2022) 年 10 月 31 日追加)

平成 31/令和元 (2019) 年

・山口道弘 (1979~)「中田薫法制史学の形成と展開」(九州大学 2019-04-01~2024-03-31 (科研費)) (令和 4 (2022) 年 9 月 24 日追加)

〈<https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-19K01244/>〉

・西英昭 (1974~)「中華民国初期における中国法制史学展開過程の一断面—教科書の分析を中心に—」『法政研究』第 86 巻第 2 号 (令和元 (2019) 年 10 月刊) 211~266 頁 (令和 3 年 12 月 5 日追加)

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/2534547/p266.pdf〉

令和 2 (2020) 年

・山口道弘「三上参次と官学アカデミズム史学の成立」『法政研究』第 86 巻第 4 号 (令和 2 年 3 月 13 日刊) 289~354 頁 (令和 4 (2022) 年 9 月 24 日追加)

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/2800501/p354.pdf〉

令和 2 (2020) 年

・畠山亮「第 1 部 團藤重光の法思想・立法論 第 1 章 法学教育史から見る法制史についての一考察——東京帝国大学生・團藤重光の受講ノートをたよりに」福島至 (1953~) 編著『團藤重光研究 法思想・立法論、最高裁判事時代』(龍谷大学社会科学研究所叢書第 128 巻、日本評論社、令和 2 (2020) 年 2 月 29 日刊) 10~43 頁

〈<https://www.nippsy.co.jp/shop/book/8228.html>〉

(参考) (KAKEN)「團藤重光日記の分析と翻刻—最高裁研究と法思想研究を軸として」

〈<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K01255/>〉

(兒玉圭司先生の御示教に拠る。厚く御礼申し上げます。)(令和 4 (2022) 年 10 月 31 日追加)

令和 3 (2021) 年

・山口道弘「南北朝正閏論争と官学アカデミズム史学の文化史的展開 (1)」『法政研究』第 87 巻第 4 号 (令和 3 (2021) 年 3 月 15 日刊) 502~441 頁 (令和 4 (2022) 年 10 月 31 日追加)

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/4370977/8404_p502.pdf〉

・山口道弘「南北朝正閏論争と官学アカデミズム史学の文化史的展開 (2・完)」『法政研究』第 88 巻第 1 号 (令和 3 (2021) 年 7 月 27 日刊) 388~325 頁 (令和 4 (2022) 年 10 月 31 日追加)

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/4485658/88_1_p388.pdf〉

令和 4 (2022) 年

・山口道弘「牧健二と文科派法制史学の展開 (上)」『法政研究』第 88 巻第 4 号 (令和 4 (2022) 年 3 月 14 日刊) (横書) 242~191 頁 (令和 4 (2022) 年 10 月 31 日追加)

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/4772779/8804_pa242.pdf〉

- ・山口道弘「牧健二と文科派法制史学の展開（下）」『法政研究』第 89 巻第 1 号（令和 4（2022）年 7 月 29 日刊）（横書）170～117 頁（令和 4（2022）年 10 月 31 日追加）
〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/4796016/8901_p117.pdf〉

令和 5（2023）年

- ・北康宏（1968～）『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）（令和 5（2023）年 7 月 17 日追加）

【書評】本郷恵子「片隅から歴史を照らす」『文藝春秋』令和 6（2024）年 1 月号（「2023 年「わたしのベスト 3」）503 頁（令和 6（2024）年 1 月 8 日追加）

8 海外関係資料

平成 24 (2012) 年

・趙晶 (当時: 中国政法大学法学院博士研究生) 「近代以来日本中国法制史研究的源流——以东京大学与京都大学为视点」 [.pdf](#), 载『比较法研究』2012 年第 2 期

〈<http://flgj.cupl.edu.cn/info/1031/1012.htm>〉

〈http://flgj.cupl.edu.cn/local/F/F7/59/E831923D06A291139513B770CA8_B8A2CAA6_3DA382.pdf?e=.pdf〉

(令和 4 (2022) 年 9 月 24 日追加)

平成 30 (2018) 年

(参考) 中國政法大學法律古籍整理研究所 〈<http://flgj.cupl.edu.cn/>〉

・趙晶 (当時: 中國政法大學法律古籍整理研究所副教授) 「日本东、西两京东洋法制史学的“双子星座”」『文汇学人』第 332 期 (2018 年 3 月 2 日刊)

(令和 3 (2021) 年 12 月 25 日追加)

〈http://flgj.cupl.edu.cn/local/E/0A/37/00E71B1F056AEB51CA4B0B5A595_E2689D47_22A2D4.pdf〉

令和 3 (2021) 年

・趙晶 (中國政法大學法律古籍整理研究所教授) 「論中田薫的東洋法制史研究」『中外論壇』2021 年第 3 期 (2021 年 9 月刊)

〈http://flgj.cupl.edu.cn/local/9/77/58/A89DF123A874A4FD9662B472D24_F4B33C85_713863.pdf〉

(令和 3 (2021) 年 9 月 9 日追加、同 4 (2022) 年 1 月 11 日一部修正)

9 法制史学会創立 70 年記念行事関係

* 法制史学会 HP: 〈<https://www.jalha.org/>〉

* 平成 31 (2019) 年 4 月 13 日 (土)

・神野潔 (報告) 「明治期における日本法制史学の展開図」(法制史学会東京部会第 274 回例会「テーマ: 日本における法史研究の歴史」(下記法制史学会第 71 回総会〔ミニ・シンポジウム〕準備会との由。平成 31 年 4 月 13 日 (土) 午後、於東京大学東洋文化研究所大会議室) の一つとして) 〈<https://www.jalha.org/tokyo/>〉

・藤野奈津子 (報告) 「明治前期における西洋法史学の成立過程—宮崎道三郎『羅馬法講義』ノートを中心に—」(法制史学会東京部会第 274 回例会「テーマ: 日本における法史研究の歴史」(下記法制史学会第 71 回総会〔ミニ・シンポジウム〕準備会との由。平成 31 (2019) 年 4 月 13 日午後 (土)、於東京大学東洋文化研究所大会議室) の一つとして)

〈<https://www.jalha.org/tokyo/>〉

* 令和元 (2019) 年 6 月 8 日 (土)

・法制史学会第 71 回総会〔ミニシンポジウム〕「日本における法史研究の歴史」(令和元 (2019) 年 6 月 8 日 (土) 午後、於神戸学院大学ポートアイランドキャンパス。田口正樹、

神野潔、赤城美恵子、藤野奈津子、松沢裕作、大中有信各氏)

- ・神野潔（報告）「明治期における日本法制史学の展開図」
- ・藤野奈津子（報告）「明治前期における西洋法史学の誕生」等あり。

〈<https://www.jalha.org/soukai2/>〉

〈<https://www.jalha.org/wordpress/wp-content/uploads/2019/05/71soukai.pdf>〉

* 『法制史研究 70 (2020)』(令和3 (2021) 年3月30日刊) 収録著作 (令和3 (2021) 年10月31日追加)

- ・神野潔「明治期における日本法制史学の展開図」『法制史研究 70 (2020)』(令和3 (2021) 年3月30日刊) 131～147 頁
- ・藤野奈津子「明治前期における西洋法史学の誕生」『法制史研究 70 (2020)』(令和3 (2021) 年3月30日刊) 179～207 頁

10 高弟その他諸氏関係資料

(追記) 下記北康宏先生『中田薫』327～343頁掲載「参考文献」で補正追加願います。

・北康宏(1968～)『中田薫』(人物叢書、吉川弘文館、令和5(2023)年8月1日刊)(令和5(2023)年7月17日追加)

(1) 石井良助博士(昭和5年東大法卒、東大法教授、1907～1993)

・「中田薫」『大日本百科事典・ジャポニカ 13』(小学館、昭和45年刊)、『日本大百科全書 17』(小学館、昭和62年9月17日刊)、『国史大辞典 第10巻』(吉川弘文館、平成元年9月30日刊) 603～604頁等各所収

・(重複)「日本法制史研究の発達」『東京帝国大学学術大観 法学部 経済学部』(東京帝国大学、昭和17年4月13日刊) 277～293頁(国立国会図書館デジタルコレクション:151～159コマ <<https://dl.ndl.go.jp/pid/1141764/1/2>>)

・「中田薫著『法制史論集』第一巻の再版を喜ぶ」『図書』第89号(岩波書店、昭和32(1957)年2月刊) 22～23頁(富澤周平先生の御示教に拠る。)

・「日本法制史学八十八年一東京大学における一」『国家学会雑誌』第81巻第1・2合併号(昭和43年刊。後、『大化改新と鎌倉幕府の成立 増補版〔法制史論集第1巻〕』(創文社、昭和47年10月25日増補版第1刷刊 327～359頁)に再録。このうち、中田博士に関する部分については、前掲中田薫『法制史論集』第4巻(岩波書店、昭和46年3月12日再刷刊)に「中田先生の業績について」として補訂採録。)

・「中田博士の法制史の比較研究法について」『国家学会雑誌』第82巻第7・8号(昭和44年刊。後に前掲『大化改新と鎌倉幕府の成立 増補版〔法制史論集第1巻〕』360～386頁に再録。)

・石井良助・芥川集一(1922～1991)・進士慶幹(1925～1987)「日本法制史研究の軌跡—石井良助教授にきく」『専修史学』第10号(専修大学歴史学会十周年記念号、昭和53年4月刊) 10～24頁

・「石井良助 日本法制史研究」『講義のあとで 碩学30人が語る学問の世界』(日本リクルートセンター出版部、昭和55年10月8日刊) 179～192頁

・「解説」中田薫『徳川時代の文学に見えたる私法』(岩波書店〈岩波文庫〉、昭和59(1984)年3月16日刊)

(2) 久保正幡博士(昭和9年東大法卒、東大法教授、1911～2010)

・「中田薫先生の遺されたもの」『図書』第254号(昭和45(1970)年10月号) 26～29頁(当該『図書』広告分5頁には、中田薫著『法制史論集』全4巻(5冊)の予約募集広告(第1巻は同年11月12日発売予定、以後毎月1冊ずつ巻を追って刊行とある。)が出ているので、同稿は再刊記念として書かれたものかと思われる。なお、この時、『法制史論集』第4巻に「著作文献目録」及び石井良助「中田先生の業績について」が併載された。)

(阪本尚文先生の御示教に拠る。)

・「講演 西洋法制史学の展望」『法学協会雑誌』第 89 卷第 8 号 (昭和 47 (1972) 年 8 月 1 日刊) 53～80 頁 (久保先生の最終講義 (昭和 47 (1972) 年 2 月 5 日、於東大法学部第 22 番教室) をまとめたもの)

・久保正幡博士講演「中田薫先生の思い出と法制史学会の回顧」第 170 回法制史学会東京部会例会 (<https://www.jalha.org/history/tokyo/>)

(1) 日時 平成 7 (1995) 年 12 月 26 日 (火) 午後 3 時～5 時 50 分

(2) 会場 早稲田大学本部キャンパス 1 号館 3 階 308 号室

(3) 司会 明治大学法学部千葉徳夫教授

(4) 出席者 約 30 人

(幹事: 明大法学部千葉徳夫教授及び早大社会科学部 [当時] 島善高教授)

(警察政策学会警察史研究部会編『近代警察史の諸問題 一川路大警視研究を中心に一 (第二輯) 一武藤誠氏・加藤晶氏・福永英男氏・戸高公德氏追悼記念論集一【下冊】』(警察政策学会資料第 115 号、警察政策学会、令和 3 (2021) 年 5 月 8 日発行) 455～475 頁に要旨掲載。(<http://www.asss.jp/>) ⇒

〈<http://www.asss.jp/report/%E8%AD%A6%E5%AF%9F%E6%94%BF%E7%AD%96%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99115.pdf>〉(令和 3 (2021) 年 10 月 31 日一部追加)

(参考)

・『久保正幡略年譜・主要著作目録』(久保正幡先生編、製作・洋販、A5 判、平成 10 (1998) 年 10 月 20 日刊。「付録写真集 (平成 10 (1998) 年 10 月 20 日作成)」もあり。「定本縮刷版及び付録写真集」との先生による別称あり。)

・「訃報 久保正幡名誉教授」『東京大学学内広報』No.1398 (平成 22 年 4 月 23 日刊) 68 頁 (<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400004872.pdf>)

・淵倫彦 (1941～)「追悼の辞 久保正幡先生のこと」『法制史研究』60 (法制史学会年報 (2010 年)、平成 23 (2011) 年 3 月 30 日刊) 349～352 頁

・松村勝二郎 (1941～)「〈学びつつ老いる〉—久保正幡先生の思い出—」(上記警察政策学会資料第 115 号 476 頁所収)

(参考) 平成 6 (1994) 年頃久保正幡先生と御関係の深かった松村勝二郎先生 (1941～)、岩野英夫先生 (1944～) 及び中村義孝先生 (1937～2018) のお三方が「久保正幡先生を囲む会」を企画、実施されたということであるが、諸般の事情により公表されていない由。

(3) 高柳真三博士 (大正 14 年東大法卒、東北大法文 (法) 教授、1902～1990)

・「追悼の辞 中田先生を偲ぶ」『法制史研究 18 1968』(昭和 43 (1968) 年 10 月 20 日刊) 204～213 頁

・高柳洋吉 (1926～2020) 編『高柳真三遺文集 追想のために』(私刊、平成 3 年 11 月刊)

(4) 原田慶吉教授（大正 15 年東大法卒、東大法教授、1903～1950）

・（重複）「我が国に於ける外国法史学の発達」『東京帝国大学学術大観 法学部 経済学部』（東京帝国大学、昭和 17（1942）年 4 月 13 日刊）294～307 頁（国立国会図書館デジタルコレクション：160～166 コマ 〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1141764/1/2>〉）

（参考）和田徹「原田慶吉電子文庫」（令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館）」

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/data/HARADA007.html>〉

・「原田慶吉教授略年譜・著作目録」参照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada001.pdf>〉

(5) 金田平一郎博士（大正 15 年東大法卒、九大法文（法）教授、1900～1949）

・金田平一郎著・和仁かや監修『近世民事責任法の研究』（九州大学出版会、平成 30（2018）年 9 月 10 日刊）中の和仁先生「解題」参照。

〈<https://www.ajup-net.com/bd/isbn978-4-7985-0238-0.html>〉

・和仁かや・梶嶋政司（翻刻）「資料 金田平一郎『昭和四年 日誌』『法政研究』第 85 巻第 2 号（平成 30（2018）年 10 月 10 日刊）

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_detail_md/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=MD100000&bibid=1957720&opkey=B154021480957790&start=1&listnum=1&place=&totalnum=9&list_disp=50&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=000000000〉

・和仁かや・梶嶋政司・山根泰志・宮嶋舞美「金田平一郎旧蔵書」『九州大学附属図書館研究開発室年報（2020～2021）』（令和 3（2021）年 8 月刊）1～28 頁（中田薫博士書簡等にも言及あり。同年 8 月 16 日リポジトリ登録：〈<http://hdl.handle.net/2324/4485342>〉）（令和 3 年 8 月 16 日和仁かや教授の御教示に拠る。）

・「金田平一郎博士略年譜・著作目録」併照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

(6) 仁井田陞博士（昭和 3 年東大法卒、東大東文研教授、1904～1966）

・仁井田陞「5 研究三十五年の回顧」『中国の法と社会と歴史』（岩波書店、昭和 42 年 6 月 21 日刊）163～189 頁、同「IV 研究回想」『東洋とは何か』（東京大学出版会、昭和 43 年 9 月 10 日刊）259～289 頁等。

（参考 1）・尾形勇（1938～）「仁井田陞 1904～66」今谷明（1942～）・大濱徹也（1937～）・尾形勇・樺山紘一（1941～）編『20 世紀の歴史家たち（1）—日本編 上—』（【刀水歴史全書 45（1）】、平成 9（1997）年 7 月 22 日刊）217～228 頁（末尾掲載「本稿の主要参考資料」等参照。）（令和 4（2022）年 9 月 24 日追加）

（参考 2）・「先学を語る——仁井田陞博士——」『東方学回想Ⅶ 先学を語る（5）』（刀水書房、平成 12（2000）年 9 月 25 日刊）117～146 頁（原載：『東方学』第 78 輯（平成元（1989）年 7 月刊））（令和 5（2023）年 1 月 7 日追加）

(7) 石井紫郎教授（昭和 34 年東大法卒、東大法教授、1935～2023）

- ・「中田薫」永原慶二（1922～2004）・鹿野政直（1931～）編著『日本の歴史家』（日本評論社、昭和 51 年 5 月 30 日刊）116～125 頁
- ・「中田薫」『国民百科事典』10（平凡社、昭和 53 年刊）、『大百科事典』11（平凡社、昭和 60 年刊）、『世界大百科事典』21（平凡社、昭和 63 年 3 月 15 日刊）59 頁（2003 年版）、『朝日人物百科事典』（朝日新聞社、平成 2 年刊）、『日本史大事典』第 5 卷（平凡社、平成 5 年 11 月 18 日刊）等各所収

(8) その他諸氏

- ・内田智雄（1905～1989）「中国の法制史について—中田薫博士の「律令法系の發達について」補考」にちなんで—『同志社法学』第 7 卷第 5 号（昭和 31 年 1 月 15 日刊）1～16 頁〈<https://ci.nii.ac.jp/naid/110000401258>〉（令和 4（2022）年 1 月 15 日追加）
〈https://doshisha.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=17274&item_no=1&page_id=13&block_id=100〉（令和 5（2023）年 1 月 7 日追加）
- ・「学界消息 中田薫博士の訃」『日本歴史』第 237 号（昭和 43（1968）年 2 月 1 日刊）142 頁
- ・横田正俊（大正 12（1913）年東大法卒、最高裁長官、1899～1984）『法の心』（毎日新聞出版、昭和 46（1971）年 5 月 30 日刊）⇒「大学の恩師をしのぶ」（182～194 頁。中田博士関係：191 頁）
- ・矢部貞治（1902～1967）『矢部貞治日記 銀杏の巻』（自昭和 12 年 5 月 28 日至昭和 20 年 12 月 31 日。読売新聞社、昭和 49（1974）年 5 月 15 日刊）（以下要再確認）9、42、88、93（2 か所）、94、150、152、173、200（重要）、203、223（3 か所）、236、306、479、490、492、538、546（2 か所）、804 頁（令和 5（2023）年 1 月 7 日追加）
- ・井ヶ田良治（1926～2018）「中田薫」潮見俊隆（1922～1996）・利谷信義（1932～2019）編著『日本の法学者』（法学セミナー増刊号。日本評論社、昭和 49（1974）年 6 月 30 日刊。後、同編『日本の法学者』〈セミナー叢書。日本評論社、昭和 50 年 6 月 20 日刊〉として再刊）219～240 頁。「法制史学会 HP 全データの検索」（「中田薫」）参照。
- ・わが国における法史学の歩み研究会 代表岩野英夫「聞き書き・わが国における法史学の歩み（2）—井ヶ田良治先生にお聞きする—」『同志社法学』第 55 卷第 1 号（292 号）（平成 15（2003）年 5 月 31 日刊）293～363 頁（令和 4（2022）年 10 月 31 日追加）
〈https://doshisha.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=19156&item_no=1&page_id=13&block_id=100〉
- ・石母田正（1912～1986）「三先生のこと」『戦後歴史学の思想』（法政大学出版局、昭和 52（1977）年 3 月刊）

・笠松宏至（1931～）「中田薫に帰る—『法制史論集復刊にあたって』—」『図書』第433号（岩波書店、昭和60（1985）年9月刊）46～47頁（富澤周平先生の御示教に拠る。その後笠松宏至『中世人との対話』〈東京大学出版会、平成9（1997）年7月4日刊〉209～212頁に再録。）（令和3年12月5日一部修正）

・木本至（1937～）『評傳 宮武外骨』（社会思想社、昭和59（1984）年10月30日刊。宮武外骨：1867～1955）（主要人名索引：中田薫（頁数省略）、中田瑞彦：491、501頁）（令和6年1月8日追加）

・頼松瑞生（1967～）「財産制度史研究にみえたる法思想—中田薫を中心に—」『法学研究』第69巻第10号（平成8（1996）年10月刊）91～129頁（慶應義塾大学学術情報リポジトリに掲載。）

〈https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19961028-0091〉（令和5（2023）年1月7日追加）

・古澤直人（1958～）「中田薫」『歴史学事典』第5巻（歴史家とその作品。弘文堂、平成9（1997）年10月15日刊）384～385頁

・「中田薫」日本歴史学会『日本史研究者辞典』（吉川弘文館、平成11（1997）年6月1日刊）233頁

・山口道弘（1979～）「牧健二の史学史的研究序論—特に委任制封建制論及び知行論争理解の深化に向けて—」『千葉大学法学論集』第27巻第2号（平成24（2012）年9月刊）117～142頁（令和4（2022）年9月24日追加）

〈https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/900116579/09127208_27-2_117.pdf〉

・山口道弘「第11章 私有と自主立法権（Autonomie）—法制史家中田薫の学問形成—」佐藤健太郎・荻山正浩・山口道弘編著『公正から問う近代日本史』（吉田書店、平成31（2019）年3月25日刊）509～556頁（佐々木健先生の御示教に拠る。）

・山口道弘「中田薫法制史学の形成と展開」（九州大学 2019-04-01～2024-03-31（科研費））（令和4（2022）年9月24日追加）

〈<https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-19K01244/>〉

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/2534547/p266.pdf〉

・山口道弘「三上参次と官学アカデミズム史学の成立」『法政研究』第86巻第4号（令和2（2020）年3月13日刊）289～354頁（令和4（2022）年9月24日追加）

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/2800501/p354.pdf〉

・（重複掲載）趙晶（中国政法大学法律古籍整理研究所教授）「論中田薫的東洋法制史研究」『中外論壇』2021（令和3）年第3期（2021年9月刊）（令和3年12月5日追加、同4年1月11日一部修正）

〈http://flgi.cupl.edu.cn/local/9/77/58/A89DF123A874A4FD9662B472D24_F4B33C85_713863.pdf〉

・山口道弘「牧健二と文科派法制史学の展開（上）」『法政研究』第88巻第4号（令和4（2022）年3月14日刊）（横書）242～191頁（令和4（2022）年6月24日追加）

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/4772779/8804_pa242.pdf〉

・山口道弘「牧健二と文科派法制史学の展開（下）」『法政研究』第 89 巻第 1 号（令和 4（2022）年 7 月 29 日刊）（横書）170～117 頁（令和 4（2022）年 9 月 24 日追加）

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/4796016/8901_p117.pdf〉

・吉川弘文館「人物叢書」でも令和 4（2022）年 10 月末現在で北康宏教授による評伝刊行が予定されているとの由。

（〈<http://www.yoshikawa-k.co.jp/news/nc1334.html>〉（令和 2（2020）年 8 月現在）⇒

〈<http://www.yoshikawa-k.co.jp/news/n43108.html>〉（令和 3（2021）年 10 月更新））（令

和 4（2022）年 1 月 15 日一部修正）

⇒『人物叢書』続刊予定書目（2022 年）（吉川弘文館 出版図書目録 2022-2023 年版記載）

〈<http://www.yoshikawa-k.co.jp/news/n49090.html>〉（令和 4（2022）年 10 月 31 日一部

修正）

⇒北康宏（1968～）『中田薫』（人物叢書、吉川弘文館、令和 5（2023）年 8 月 1 日刊）

〈<http://www.yoshikawa-k.co.jp/book/b626819.html>〉（令和 5（2023）年 7 月 17 日追加）

・「法制史学会 HP 全データの検索」

〈<https://www.jalha.org/>〉⇒〈<https://www.jalha.org/cgi-bin/alsrch.cgi>〉

（参考 1）＊内藤吉之助教授（大正 8（1919）年東大法卒、京城大法文教授、1894～1946、エンゲルス『家族・私有財産及び国家の起源』の本邦初訳者（れしな荘版・大正 10（1921）年刊、有斐閣・大正 11（1922）年刊））

・「内藤吉之助教授について一略年譜、著作目録抄、その他一」『法史学研究会会報』第 21 号（岡野誠先生退休記念号、平成 30（1998）年 3 月 26 日刊）119～125 頁

・「内藤吉之助教授略年譜。著作目録」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

（参考 2）＊瀧川政次郎博士（大正 11（1922）年東大法卒、九大法文教授、1897～1992）

・瀧川政次郎『日本法制史』上（講談社学術文庫、昭和 60（1985）年 6 月 10 日刊）巻頭「学術文庫『日本法制史』序」にいう中田博士の瀧川博士執筆に係る「批評紹介の文」の没書処分、破門状送付云々（4～6 頁）については周知のとおりであるが、『国家学会雑誌』第 40 巻第 8 号（大正 15（1926）年 8 月刊。117～120 頁）には当該「（紹介及批評）中田薫著『法制史論集』第一巻」は掲載されており、些か齟齬がある。このあたりの経緯についてはなお不詳（富澤周平先生の御示教に拠る。）。⇒北康宏『中田薫』182 頁以下参照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takikawa001.pdf>〉

・七戸克彦（1959～）「九州帝国大学内証事件—東京帝国大学・京都帝国大学の内紛・辞職事例との比較」『法政研究』第 81 巻第 4 号（平成 27（2015）年 3 月刊）147～156 頁等各参照。

〈https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_detail_md/?reqCode=frombib&lang=0&amode=MD100000&opkey=&bibid=1498325&start=

〈<https://doi.org/10.15017/1498325>〉

（参考 3）「法制史学会 HP 全データの検索」⇒「中田薫」で検索のこと。

〈https://www.jalha.org/alsrch_e.htm〉

11 漢詩

・井ヶ田良治教授（1926～2018）は、前掲「中田薫」『日本の法学者』末尾（240 頁）を「最後に、中田の晩年の詩を掲げ、この近代法制史学の偉大な建設者の人柄をしのぶよすがとしよう。 俗界昇沈夢一場 翻然皈臥旧僧房 磬鐘朝暮名峰響 門外行雲流水長薫」で締め括っておられる（ただし、漢詩の出处は不明。）。高橋均先生の御示教では、「(書下し文) 俗界の昇沈夢一場 翻然として皈臥す旧僧房 磬鐘朝暮名峰に響く 門外の行雲流水長 (大意) 俗界の昇沈などはまさにひとしきりの夢 思い切って古い僧房に帰って暮らそう 鐘の音が朝暮名峰に響きわたり 門外に浮かぶ雲と流れる水と (磬は小さなかねで、磬鐘でお寺の鐘ということか。皈は帰と同じ。)」とのことである。高橋先生の御厚意に厚く御礼申し上げます。

12 その他

・『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録一【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）—』（令和 4（2022）年 4 月 1 日刊）に「中田薫博士関係資料抄（三訂稿）」を収録した。

〈<https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056>〉

（令和 4（2022）年 6 月 24 日追加）

（了）